

山の百名花

遠足員 島 真一

【17】ミヤマバイケイソウ

2005年7月、梅雨の明けるのを待つて久し振りに北アルプス雲ノ平への山旅に単独で出かけた。

折立から太郎平への道でもコバイケイソウの白い花が目についたが、薬師沢からカベツケが原にかけて群落が見られた。さらに雲ノ平から黒部源流にかけてはまさにコバイケイソウの当たり年と呼ぶに相応しい大群落が随所に見られ目を楽しませてくれた。さらに同じバイケイソウの名が付くミヤマバイケイソウの緑色の花にも出合うことができた。

台風の接近で、雲が垂れこめ山々の頂きは雲の中。足元を見ながら先を急ぐ中、三俣蓮華岳の山腹を巻き双六小屋への途中で緑の花を付けた大きな花茎が目に入った。葉を見るとまさしくバイケイソウ、ミヤマバイケイソウとの出会いであった。

緑色の花は周囲の植物の中に溶け込んでしまいそう、しかし真っ直ぐ伸びた花茎にしつかりと小さな花をつけ、一生懸命にま

わりの植物たちから存在を誇示しているように見えた。

帰宅して、あらためて写真を見てみると花はコバイケイソウより一つ一つが大きく珍しい緑色の花として記憶に長く残りそうである。残念なことに、台風が気になっていたのか撮った写真が一枚だけなのが心残りとなった。



【18】オオミスミソウ

(雪割草とも言われる。和名ユキワリソウはサククラソウ科の植物で主に高山の岩場に生える別種)

2006年4月、カタクリとオオミスミソウを求めて、宮下(卓)講師の案内で新

潟・弥彦山へトンビ岩口から登りはじめ、さっそくカタクリの群生に迎えられた。斜面は紅葉色に彩られ満開のようす、やがてカタクリの間に白い小さな花が混じりはじめた。カタクリに負けじと精一杯に咲いているように見える可憐なオオミスミソウの群生があちこちに見られた。登るにつれて同行の女性から色が変わった花を見つけたと声があがる。白い花だけでなく薄い紅紫色の花も混じっている。弥彦山頂には残雪があり多宝山からの下山は雪が深いためロープウェイの利用となった。

この日の宿は一軒家の湯ノ後温泉・湯乃越館、木造の宿で浴槽は細長い三角型であった。次の日は朝から小雨模様の中、角田岬から角田山へ登りだした。暫く登るとカタクリが見られるようになり、白い花のオオミスミソウの群生も広い範囲にみとめられた。角田山の山頂に近づくにつれて雪解けと雨が加わって道はドロドロ、泥田のようにならわっていた。

山全体がオオミスミソウに埋め尽くされたような樋曾山を経て下山、春の妖精たちとの出会いを満喫できた山旅であった。